

#

D780の各部名称を確認する

KEYWORD 各部名称

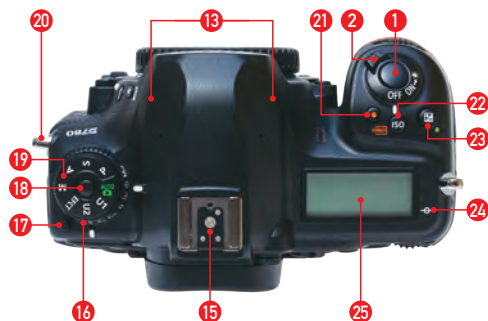
1 ボタンの配置と名称を覚える

D780は**FXフォーマット**採用の高性能デジタル一眼レフカメラだ。それに見合うだけの機能が数多く搭載されている。使いこなすために、まずきちんと各ボタンやダイヤルの名称を確認しておこう。

〔前面・上面〕



- 1 シャッターボタン
- 2 電源スイッチ
- 3 サブコマンドダイヤル
- 4 セルフタイマーランプ
- 5 Pv(プレビュー)ボタン
- 6 Fn(ファンクション)ボタン
- 7 パワーコネクターカバー
- 8 露出計連動レバー
- 9 レンズ信号接点
- 10 レンズマウント
- 11 AFカップリング
- 12 ミラー
- 13 マイク(ステレオ)
- 14 レンズ取り外しボタン
- 15 フラッシュ取り付け部(アクセサリシュー)
- 16 レリーズモードダイヤル
- 17 レリーズモードダイヤルロックボタン
- 18 撮影モードダイヤルロックボタン
- 19 撮影モードダイヤル
- 20 ストラップ取り付け部(吊り金具)
- 21 動画撮影ボタン
- 22 ISO感度/フォーマットボタン
- 23 露出補正/ツールボタンリセットボタン
- 24 距離基準マーク
- 25 表示パネル

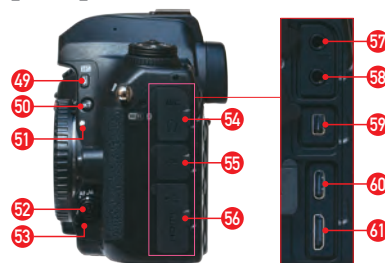


〔背面〕



- 26 ファインダー接眼窓
- 27 接眼目当て
- 28 視度調節ダイヤル
- 29 ライブビューセレクター
- 30 ライブビューボタン
- 31 AF-ONボタン
- 32 メインコマンドダイヤル
- 33 AE/AFロックボタン
- 34 マルチセレクター
- 35 OKボタン
- 36 フォーカスポイントロックレバー
- 37 スピーカー
- 38 SDカードアクセスランプ
- 39 iボタン
- 40 チルト式画像モニター
- 41 Infoボタン
- 42 縮小/サムネイル表示/測光モード/ツールボタンリセットボタン
- 43 拡大表示/画質モード/画像サイズボタン
- 44 ヘルプ/プロテクト/ホワイトバランスボタン
- 45 MENUボタン
- 46 チャージLED
- 47 再生ボタン
- 48 削除/フォーマットボタン

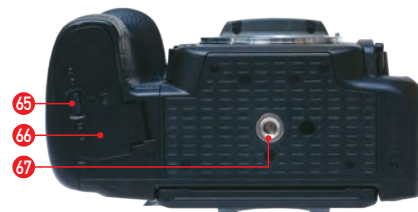
〔側面〕



- 49 フラッシュモード/調光補正ボタン
- 50 BKTボタン
- 51 レンズ着脱指標
- 52 AFモードボタン
- 53 フォーカスモードセレクター
- 54 マイク/ヘッドホン端子カバー
- 55 アクセサリーターミナル端子カバー
- 56 USB/HDMI端子カバー
- 57 外部マイク入力端子
- 58 ヘッドホン出力端子
- 59 アクセサリーターミナル
- 60 USB端子
- 61 HDMI端子
- 62 SDカードカバー
- 63 スロット1
- 64 スロット2

〔底部〕

- 65 バッテリー室開閉ノブ
- 66 バッテリー室カバー
- 67 三脚ネジ穴

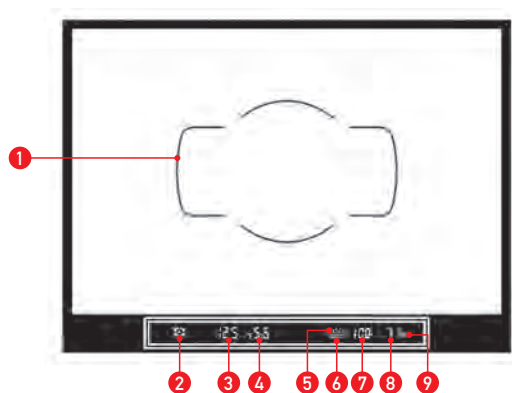


ファインダー・モニターの 使い方を覚える

1 ファインダー表示を確認する

D780はデジタル一眼レフカメラだ。カメラ内のミラーを通じて肉眼で見たものをそのまま光学ファインダーから確認し撮影できる。従来機(D750)よりも光学系が改善されたこともあり、D780の光学ファインダーは非常にクリアで見やすい。ライブビューを使った撮影と適材適所でうまく使い分けよう。なお、ファインダー内にも設定内容が表示されるので、確認しながら撮影に臨める。

[ファインダー内の基本表示]



① AFエリアフレーム

② 測光モード(→P.84)

③ シャッタースピード(→P.69)

④ 絞り値(→P.70)

⑤ ISO感度マーク

⑥ ISO-AUTOマーク

⑦ ISO感度(→P.80)

⑧ 記録可能コマ数

⑨ 1000コマ以上補助表示

2 ファインダー撮影のメリット

ファインダー撮影は周囲の要素に惑わされず、撮影範囲だけを見ながら集中して撮影に臨める。構図をしっかり吟味したい場面では、ファインダー撮影が有効だ。また、海辺などのロケーションでその場が明るくライブビューが見にくい場面でもファインダーに目を当てることで、明るさの影響を受けず情景を確認できる。



ファインダーで撮影する際は、しっかり目を接眼部(アイピースキャップ)に押し当てよう。外光が防げるだけでなく、カメラの安定感も増す。



このような明るい場所ではファインダーを利用することで、構図が決めやすくなる。動きの速い被写体でも有効だ。

3 チルト可動式モニターを使う

ライブビュー撮影はその気軽さが魅力だ。相手に圧迫感を与えず撮影できる。周囲の様子を気にしながら撮りたい場合にも有効だろう。**D780はチルト可動式3.2型TFT液晶モニター**を採用している。ローアングルやハイアングルからの撮影も気軽に楽しめる。さらに解像度は約236万ドットなのもポイントだ。



液晶モニターはチルト可動式。上下に角度を調整できる。視野角は170°を実現している。



チルト可動式だと撮影領域が一気に広がる。特にローアングルは利用頻度が高い。

AFモードの種類を理解する

KEYWORD AFモード/AF-S/AF-C/AF-A

1 AFモードとは

前述のとおり、ピントはシャッターボタンの半押しで自動的に合う。これを**オートフォーカス(AF)**という。**AFモード**はこのシャッターボタン半押し時のAF動作を変更できる機能だ。具体的には静止した被写体向けの**AF-S**、動く被写体に対応する**AF-C**、両方を被写体に応じて自動で切り換える**AF-A**、動画撮影用の**AF-F**の4種類がある。AF-Sはシャッターボタン半押し中、一度合わせたピントがそのまま固定される。対して、AF-Cはシャッターボタンを半押しし続ける限り、動く被写体に合わせてピント合わせが継続されるのが特徴だ。

[AFモードの種類]

AF-S [シングルAF]	静止した被写体向き。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされる。
AF-C [コンティニュアスAF]	スポーツなどの動きのある被写体向き。シャッターボタンの半押し中はフォーカスロックがされず、被写体の動きに合わせてピントを合わせ続ける。
AF-A [AFモード自動切り換え]	静止している被写体はAF-Sで、動いている被写体はAF-Cで撮影する。静止画撮影時のみ対応。
AF-F [フルタイムAF]	動画撮影時のみ対応。カメラは常に被写体の動きや構図の変化に合わせてピント合わせを続ける。シャッターボタン半押しでピントを合わせ、ピントが合った時点でフォーカスポイントが赤色から緑色に変って点灯、フォーカスがロックされる。

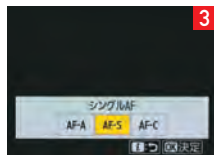
[設定方法]



AFモードボタンを押しながら
メインコマンドダイヤルを回す。



表示パネルを見ながら切り換えていく。



AFモードはiメニューからも切り換える。

2 AF-Sで静止した被写体を撮影する

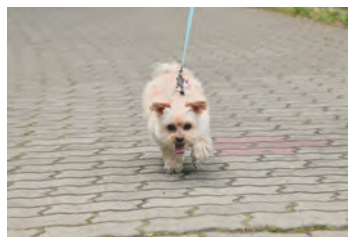
AF-Sは静止した被写体や動きがそれほど激しくない被写体を撮影するのに最適だ。日常的なスナップや自然風景、ポートレート、テーブルフォトなど、幅広くさまざまな場面で利用できる。通常はこのモードを設定しておけば問題ないだろう。



こうした日常的なスナップはAF-Sを使おう。一度ピントを合わせれば、シャッターボタンを半押しし続ける限り、ピントはずれない。

3 AF-Cで動く被写体を撮影する

動く被写体、特に前後に動く被写体を撮る際に使いたいのがAF-Cだ。被写体を追従しながら、ピント合わせを何度でも繰り返してくれる。スポーツや乗り物、動き回る動物、運動会での子どもの撮影など、重宝する場面はとても多い。



AF-Cはこうした前後の動きに強い。被写体が前後に動いても、シャッターボタン半押し中は被写体に追従してピントを合わせ続けてくれる。

ターゲット追尾AFで撮影する

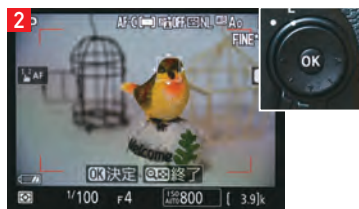
1 ターゲット追尾AFを設定する

ライブビュー撮影でオートエリアAFを利用する際に、ぜひ有効に活用したいのが**ターゲット追尾AF**だ。フォーカスポイントを指定した被写体に追尾させる機能で、動く被写体を撮る際に便利。ポートレートでは顔に追尾を設定した場合、顔に合わせてフォーカスポイントが移動する。なお、ターゲット追尾AFを利用する際は、AFモードをAF-Cに設定しよう。AF-Sで利用したければ、シャッターボタン半押しによるAF駆動(→P.50)を解除しておこう。追尾していても、シャッターボタン半押しでピント位置が固定してしまい、逆にピントがずれる恐れが生じるからだ。

[設定方法]



ライブビューでAFエリアモードを[オートエリアAF]に設定する。



OKボタンで表示させたフォーカスポイントを、追尾したい被写体に合わせる。



再度OKボタンを押すと、追尾が開始される。または、タッチAFで追尾したい被写体にタッチしても、同様に追尾機能が作動する。



シャッターボタンで撮影する。再度OKボタンを押すと追尾終了。Qボタンを押すと、ターゲット追尾AFが解除される。

2 動きの緩やかな被写体で試す

ターゲット追尾AFは被写体やシーンによってはうまく作動しない場合がある。被写体の動きが速すぎると対応できないので、動きの激しいスポーツなどは不向きだ。緩やかな動きの動物撮影やアクティブに撮るポートレートなどで使ってみよう。被写体の色や明るさが背景と似ている場合や、被写体が大きすぎたり、小さすぎする場合にも正常な動作が行われにくくなるので注意しよう。



あまり動きが大きくない動物の撮影にはターゲット追尾AFが最適だ。動きをつぶさに追いつながら撮影できる。

Data			
モード	絞り優先オート	レンズ名	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR
焦点距離	120mm	絞り	F4
シャッター	1/400秒	ISO	400
WB	自然光オート	露出補正	+0.7



公園の遊具で遊ぶ子どもなども追尾しやすい。顔をうまく認識できれば、顔にピントを合わせ続けながら撮影が行える。

Data			
モード	シャッター優先オート	レンズ名	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR
焦点距離	80mm	絞り	F7.1
シャッター	1/1000秒	ISO	400
WB	晴天		

11 長時間露出で撮影する

KEYWORD バルブ/タイム/Mモード時のシャッタースピード延長/リモートコード

1 バルブ・タイムで撮影する

長時間露出撮影とは長時間シャッターを開き続けて撮影を行うテクニック。D780ではバルブとタイムの機能を搭載している。**バルブ**とは、シャッターボタンを押し続けている間はシャッターが開いたままになる機能で、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じる。**タイム**はシャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じる。主に30秒より低速にしたい場合や自分のタイミングで撮影を終えたいシーンで利用する。



60秒のタイムで撮影。車のライトが流れて、幻想的な描写に。なお、手ブレを防止するため、撮影には三脚が必須だ。

Data	
モード	マニュアル露出
レンズ名	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4 G ED VR
焦点距離	24mm
絞り	F22
シャッター	60秒
ISO	100
WB	白色蛍光灯
露出補正	-0.7

[設定方法]



撮影モードダイヤルロックボタンを押しながら撮影モードダイヤルを回しMに合わせる。



メインコマンドダイヤルを左に回していくと[Bulb]に切り換わる。

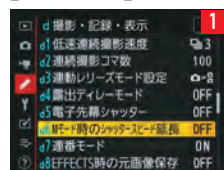


メインコマンドダイヤルをさらに左に回していくと[Time] (--)になる。

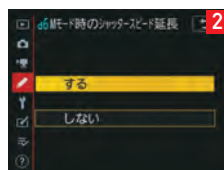
2 Mモード時のシャッタースピードを延長する

通常、設定できる低速側のシャッタースピードは30秒までだが、「**Mモード時のシャッタースピード延長**」を選ぶと、最大900秒(15分)までシャッタースピードを延ばすことができる。バルブやタイムは自分で露出時間を数える必要があるが、事前に設定時間が決められる長時間露出ではこの機能を活用するのもいいだろう。ただし、30秒以降は60秒、90秒、120秒……と30秒ずつの数値変化になり、細かく秒単位では設定できない。また、利用はMモードのみで、Sモードでは設定できないので覚えておこう。

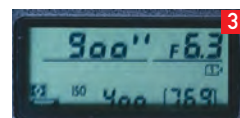
[設定方法]



カスタムメニュー[d撮影・記録・表示]から[d6Mモード時のシャッタースピード延長]を選ぶ。



[する]で決定する。



Mモードでシャッタースピードを遅くしていくと、900秒まで遅い数値が設定できる。

ONE POINT 長時間露出ではリモートコードを利用しよう

リモートコードは直接シャッターボタンを触らずにシャッターが切れるように操作できるアイテムだ。カメラのアクセサリターミナル(→P.13)にコードを取り付けて利用する。特にシャッターボタンを押し続けるバルブ撮影では欠かせない。長時間露出は三脚にカメラを取り付けてもシャッターボタンを押す動作でカメラが動き、写真がぶれてしまうことがある。リモートコードを利用すれば、こうしたブレの失敗から解放される。



リモートコードMC-DC2
長さ1m。シャッターボタンを押したままの状態でも固定することもできる。
希望小売価格: ¥3,500(税別)

ワイヤスリモートコントローラWR-T10

ワイヤスリモートコントローラWR-R10との併用で、ワイヤレスでのリモコン撮影が可能に。電池式のため遮蔽物にも強い。
希望小売価格: ¥5,000(税別)



SECTION
02 標準ズームレンズの効果を知る

KEYWORD 標準ズームレンズ

1 さまざまな被写体に対応できる

標準ズームレンズは日常的なシーンに強く、その汎用性の高さが最大の特徴。標準50mm前後を中心に広角から望遠(中望遠)までに対応し、風景から街中のスナップ、ポートレートなど、さまざまな被写体がこれ1本でカバーできる。標準ズームレンズは焦点距離の違いで生じる描写性に注目しよう。広角側で撮れば遠近感が強調でき、望遠側で撮ればボケ味や圧縮効果が活用できる。

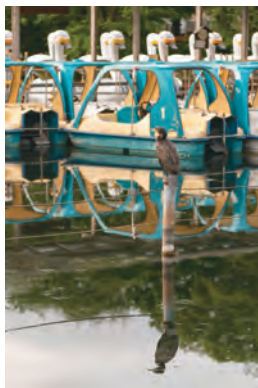


AF-S NIKKOR
24-120mm f/4G ED VR



広角24mmで撮影。自然風景や建物などを広大なイメージで撮りたければ広角側を使おう。集合写真の撮影などにも重宝する画角だ。

Data			
モード	絞り優先オート		
レンズ名	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR		
焦点距離	24mm	絞り	F8
シャッター	1/400秒	ISO	200
WB	AUTO1		



望遠120mmで撮影。離れた場所にいる動物をアップで撮りたいときなどは、望遠側が便利だ。手ブレに注意しながら撮影しよう。

Data			
モード	絞り優先オート		
レンズ名	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR		
焦点距離	120mm	絞り	F4
シャッター	1/250秒	ISO	200
WB	AUTO1		

2 シャッターチャンスに強いズーム機能

標準ズームレンズは**汎用性が高く、シャッターチャンスに強い**。とっさの判断で画角を変更したい場面でも、広角側にも望遠側にも手軽に調整できる。そういった意味では、標準ズームレンズはスナップ撮影で持ち味が発揮されるレンズだ。



こうした何気ないスナップ撮影では、画角を瞬時に判断したい。汎用性の高い画角を網羅する標準ズームレンズが最適だ。

Data	
モード	絞り優先オート
レンズ名	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR
焦点距離	24mm
絞り	F8
シャッター	1/250秒
ISO	200
WB	晴天

3 テレ端で絞りを開いてボケ味を演出する

標準ズームレンズで**ボケ味を最大限表現**したければ、レンズをテレ端(望遠側)にして、絞りを開こう。被写体に近づくほど背景ボケは大きくなるので、ポートレートや花々を撮る際にも有効だ。ピントが浅くなるため、ピント位置をしっかりと確認しよう。



開放値F4で撮影。絞り値としてはそれほど小さくないが、望遠側でしっかり寄って撮ったことで大きな背景ボケを表現できた。

Data	
モード	絞り優先オート
レンズ名	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4G ED VR
焦点距離	120mm
絞り	F4
シャッター	1/500秒
ISO	400
WB	AUTO1
露出補正	+1

躍動感のある
ポートレートに挑戦する

KEYWORD 顔認識AF/瞳AF/高速シャッター/流し撮り

1 顔認識+高速シャッターで撮影する

ポートレートをアクティブに撮るには、**顔認識AF**や瞳AFをうまく利用しよう(→P.56)。AF-Cとの組み合わせで、しっかり顔や瞳にピントを合わせ続けてくれる。ただし、動きが大きくなる場合はブレに注意したい。ISO感度を高めに設定し、**シャッタースピードを速く**して撮影に臨もう。連続撮影機能(→P.124)を使うのも効果的だ。シャッターチャンスを逃さずに切り取る。



モデルがジャンプしたところをローアングルから開放的な視点で撮影。顔認識AFのおかげで顔にしっかりピントを合わせられた。

Data	
モード	シャッター優先オート
レンズ名	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4 G ED VR
焦点距離	120mm
絞り	F4
シャッター	1/250秒
ISO	200
WB	晴天
露出補正	+0.7

2 あえて低速でブレ感を出す

ポートレートでは動く被写体を**低速シャッターでぶらす**と、動感が出て躍動的な描写になる。ポイントは、手足などの体の一部をぶらすこと。画面全体がぶれてしまったり、人物全体がぶれてしまうと単なる失敗写真になってしまう。シャッタースピードは被写体の動く速さに応じて1/30~1/60秒程度の間で試してみよう。



歩く方向に合わせ、いっしょに移動しながら低速シャッターで撮影。顔にはしっかりピントが合っているが、他の部分は左右に流れて躍動的に。このテクニックを「流し撮り」という。

Data	
モード	シャッター優先オート
レンズ名	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4 G ED VR
焦点距離	44mm
絞り	F16
シャッター	1/30秒
ISO	100
WB	晴天
露出補正	+0.3

3 画面を傾けて動感を演出する

被写体が静止した状態でも、構図を工夫することで画面に動きを持たせることができる。それが、**画面を傾けるテクニック**だ。ポイントは傾けていることがわかるように、地平線や建物などで傾いたラインを入れ込むこと。ラインをうまく入れられないと、せっかく画面を傾けても効果が半減するので注意しよう。



道路や建物のラインによる傾きが躍動感を高めている。気軽に試せるのが魅力だ。一方、傾けすぎには注意。ほどほどが大事だ。

Data	
モード	絞り優先オート
レンズ名	AF-S NIKKOR 24-120mm f/4 G ED VR
焦点距離	58mm
絞り	F8
シャッター	1/320秒
ISO	200
WB	晴天
露出補正	+0.7

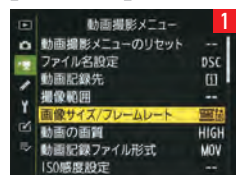
17 4K動画を撮影する

KEYWORD 4K UHD/動画切り出し/4K UHD HDR

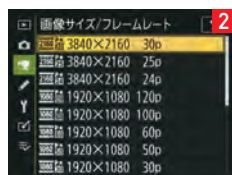
1 4K動画に切り換える

D780はFXベースの動画フォーマットフルフレームでの**4K UHD動画**に対応している。全画素読み出しによる、解像感の高い映像表現を実現し、暗いシーンもノイズの少ない映像が得られる。4K動画は「画像サイズ/フレームレート」で「3840×2160 30p」、「3840×2160 25p」、「3840×2160 24p」で利用できる。SDカードは転送速度の速いものを利用しよう。遅いと記録や再生が途中で終了してしまうことがある。UHSスピードクラス3以上がおすすめだ。

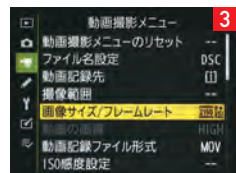
[設定方法]



メニュー画面動画撮影メニューから「画像サイズ/フレームレート」を選ぶ。



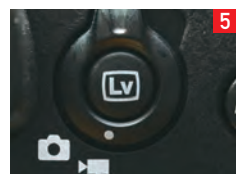
3種類の「3840×2160」から選ぶ。フレームレート(p)は多くなるほど滑らかな動きで記録される。



4K UHDを設定すると、「動画の画質」は必然的に「高画質」となり選べなくなる。



撮影モードダイヤルで撮影モードを選ぶ。はじめて操作するならば「M」を選ぶ。



ライブビューセレクターを「動画ライブビュー」に合わせ、Lvボタンを押す。



動画撮影ボタンを押すと、記録開始。もう一度動画撮影ボタンを押すと、記録終了となる。

2 動画から静止画を切り出す

記録した動画は、気に入った部分を**JPEG画像として切り出して保存**できる。高画質での動画撮影機能を搭載したD780であれば、高解像での切り出しが可能なので、うまく活用してみよう。子どもの運動会や結婚式など、動画と写真撮影の両方を押さえておきたい場面で重宝する機能だ。4K UHD動画で約800万画素、フルHD動画で約200万画素で静止画を新規保存できる。

[設定方法]



切り出したい動画を再生ボタンで表示し、OKボタンで再生する。



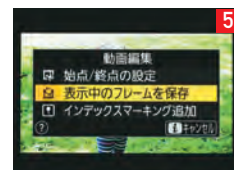
切り出したいところで、マルチセレクターの▼を押し、一時停止する。



一時停止中に、マルチセレクターの◀▶を押すと再生中の位置を調整できる。



切り出したいポイントで、iボタンを押す。



「動画編集」が表示されるので、「表示中のフレームを保存」を選んで決定する。



「保存しました。」の表示が出て、JPEG画像として保存が完了する。

ONE POINT 外部レコーダーを使い4K UHD対応HDR動画を出力する

D780では10bitでのHDMI出力時、4K UHDのHDR動画出力が可能だ。ハイライトとシャドウ、両方の階調をきちんと再現しながら映像表現できる。なお、4K UHDのHDR動画出力には外部レコーダーが必要となる。カメラ内のSDカードではなく、外部レコーダーにのみ動画は記録される仕組みなので注意しよう。

「Capture NX-D」を使ってRAW現像する

1 「Capture NX-D」のワークフローを確認する

「**Capture NX-D**」はニコン独自のRAWファイルの現像に特化したソフトウェアだ。ViewNX-iと連携して利用できる。D780で撮ったRAW画像はぜひ、Capture NX-Dで現像してみよう。ニコンカメラとNIKKOR(ニッコール)レンズから得られる高画質な画像データを最大限に生かしながら画作りできる。露出やホワイトバランス、ピクチャーコントロールの変更、トーンカーブなどを利用した現像処理など、さまざまなツールに対応する。

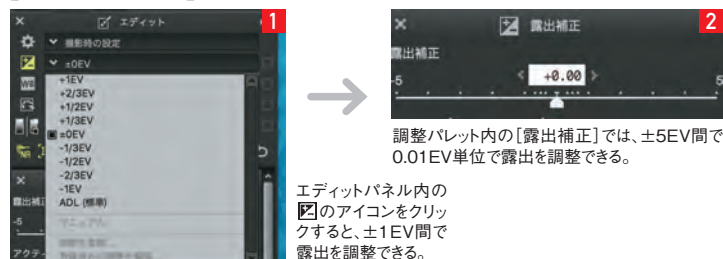


- | | |
|------------------------|--|
| ① ツールバー | 画像の表示方法や画像調整を行うツールを選択できる。 |
| ② フォルダー | 画像表示エリアに表示するフォルダーを階層表示できる。 |
| ③ 画像表示エリア | 調整できる画像を表示。 |
| ④ ヒストグラム | 現在選ばれている画像の階調。 |
| ⑤ ファイル／撮影情報／エディット／レタッチ | ファイル／撮影情報には各種情報が表示。エディットは画像の調整に使用。レタッチでは自動レタッチプランとカラーコントロールポイントの管理を行う。 |

2 露出と色味を調整する

露出や色味を扱う調整ツールはいくつかあるが、エディットパネル、または調整パレット内から調整するのがもっとも簡単な方法だ。RAW現像の魅力は撮影後でも露出や色温度を自分好みに調整できること。ぜひ、この2項目は作業できるようにしておこう。

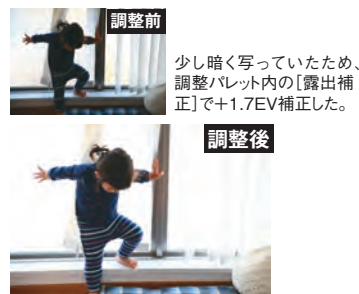
「露出の調整方法」



「ホワイトバランスの調整方法」



「露出」



「ホワイトバランス」

